

平成 30 年度

姫路市高校生議会 会議録

平成 31 年（2019 年）2 月 2 日

姫 路 市 議 会

目 次

出席高校生議員	1
事務局職員出席者	2
会議に出席した市長、職員及び市議会議員	2
議事日程	3
今里議長あいさつ	4
出席者紹介	4
高校生議長あいさつ	5
議席の指定	5
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
一般質問	6
1 藤井翔樹議員（飾磨高等学校）質問	6
「姫路市のPR方法について」	
石見市長答弁	7
2 畷田光希議員（姫路高等学校）質問	8
「児童虐待減少のための施設について」	
松岡文教・子育て委員会委員長答弁	9
3 石田航平議員（姫路東高等学校）質問	10
「姫路市立図書館における学習スペースの確保について」	
「姫路市高校生交流会の実施について」	
松田教育長答弁	11
4 吉川渚議員（姫路工業高等学校）質問	11
「地場産業と高校生のかかわりについて」	
黒川副市長答弁	13
5 中野唯議員（日ノ本学園高等学校）質問	14
「災害時における学校からの安全な帰宅について」	
駒田総務委員会委員長答弁	14
6 森本萌咲議員（姫路高等学校）質問	15
「姫路市の美化活動の活性化について」	
内海副市長答弁	16
7 大西寛登議員（飾磨高等学校）質問	17
「食のテーマパーク『姫路めいぶ通』の建設について」	

梅木経済観光委員会委員長答弁	18
高校生議長あいさつ	19
市長講評	19
三輪副議長あいさつ	20



出席高校生議員（33人）

- | | | | |
|-----|------------------|-----|---------------|
| 1番 | 中正紫音（姫路東高等学校） | 23番 | 檜原恵利花（飾磨高等学校） |
| 2番 | 志賀有紗（姫路高等学校） | 24番 | 辻元彩也夏（姫路高等学校） |
| 3番 | 鍬田光希（姫路高等学校） | 25番 | 結城潮音（姫路高等学校） |
| 4番 | 柳田菜緒（姫路高等学校） | 26番 | 平山知奈（姫路高等学校） |
| 5番 | 植山知香（姫路高等学校） | 27番 | 森本萌咲（姫路高等学校） |
| 6番 | 釣田大河（姫路工業高等学校） | 28番 | 北田彩菜（姫路高等学校） |
| 7番 | 吉川渚（姫路工業高等学校） | 29番 | 成田海人（飾磨高等学校） |
| 8番 | 中野好伸（飾磨高等学校） | 30番 | 大西寛登（飾磨高等学校） |
| 9番 | 矢内冴暁（飾磨高等学校） | 31番 | 小林眞輔（飾磨高等学校） |
| 10番 | 中野唯（日ノ本学園高等学校） | 32番 | 九鬼恵雨（飾磨高等学校） |
| 11番 | 永井咲良（日ノ本学園高等学校） | 33番 | 岩口敦（飾磨高等学校） |
| 12番 | 沖村かえで（日ノ本学園高等学校） | | |
| 13番 | 喜多壺成（飾磨高等学校） | | |
| 14番 | 藤井翔樹（飾磨高等学校） | | |
| 15番 | 川嶋望愛（姫路工業高等学校） | | |
| 16番 | 辻瑠貴亜（姫路工業高等学校） | | |
| 17番 | （本人の希望により削除） | | |
| 18番 | 北野咲希（姫路高等学校） | | |
| 19番 | 中村真里杏（姫路高等学校） | | |
| 20番 | 木村美月（姫路高等学校） | | |
| 21番 | 前田真佑（姫路東高等学校） | | |
| 22番 | 石田航平（姫路東高等学校） | | |

事務局職員出席者

事務局 長	樫本 公彦	議事課 主任	榎本 玲子
次 長	上田 憲和	議事課 主任	中村 昇平
調査課 長	安積 司		

会議に出席した市長、職員及び市議会議員

市 長	石見 利勝	議 長	今里 朱美
副 市 長	内海 將博	副 議 長	三輪 敏之
副 市 長	黒川 優	議会運営委員会 委 員 長	坂本 学
教 育 長	松田 克彦	議会運営委員会 副 委 員 長	常盤 真功
		総務委員会 委 員 長	駒田 かすみ
		総務委員会 副 委 員 長	井上 太良
		文教・子育て委員会 委 員 長	松岡 廣幸
		文教・子育て委員会 副 委 員 長	竹尾 浩司
		厚生委員会 委 員 長	有馬 剛朗
		経済観光委員会 委 員 長	梅木 百樹
		経済観光委員会 副 委 員 長	汐田 浩二
		建設委員会 委 員 長	重田 一政
		建設委員会 副 委 員 長	妻鹿 幸二

議 事 日 程

2月2日（土）

午前 10 時 開 会

- 今里議長あいさつ
- 出席者紹介
- 高校生議長あいさつ
- 開 会

日程第1 議席の指定

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第3 会期の決定

日程第4 一般質問

- 閉 会
- 高校生議長あいさつ
- 市長講評
- 三輪副議長あいさつ

今里議長あいさつ

○今里朱美議長（登壇）

皆さん、おはようございます。姫路市議会議長の今里でございます。姫路市高校生議会の開催に当たり、ごあいさつ申し上げます。

姫路市高校生議会は、昨年に引き続いての開催となりますが、このたびは市内の5つの高校から33名の皆さんに高校生議員として出席いただきました。勉強やクラブ活動で大変お忙しい中にもかかわらず、本日の開催に向けてご準備いただき、誠にありがとうございます。

また、開催に当たりご協力いただきました石見市長を初め、市当局の皆様、並びに各高校の関係者の皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、高校生議会は、姫路市の未来を担う高校生の皆さんに、模擬議会を通じて市政や議会活動に対する関心や理解を深めてもらうとともに、自分たちが暮らす地域の課題や将来のまちづくりについて、自由な発想で質問や提言をしていただき、我々市議会も一緒に考え、学んでいこうとするものでございます。

事前に皆さんからいただきました質問項目を拝見いたしますと、バラエティーに富んだ内容であり、皆さんがどのように発言されるのか、非常に楽しみにしております。大勢の前での発言は、緊張することと思いますが、しっかりと練り上げてこられた質問をぶつけていただき、盛り上げていただけたらと思います。本日は、市長、副市長、教育長とともに、普段質問する立場にある私たち市議会議員も誠意を持って答弁をさせていただきます。

最後に、本日の経験が皆さんの将来、姫路市の未来にとって有意義なものになることを祈念いたしまして、簡単ではございますが、私からのごあいさつとさせていただきます。きょうは頑張ってください。ありがとうございました。

出席者紹介

○安積司調査課長

次に、答弁を行う側の出席者を紹介したいと思います。

順に紹介いたしますので、恐れ入りますが、ご起立

いただきまして、簡単に一言ずつお願いしたいと思います。

高校生議員の皆さんから見て左側の席からご紹介いたします。1列目右から、石見市長です。

○石見市長

おはようございます。

○安積司調査課長

内海副市長です。

○内海將博副市長

おはようございます。よろしく申し上げます。

○安積司調査課長

黒川副市長です。

○黒川優副市長

はい。皆さんおはようございます。よろしくお願いたします。

○安積司調査課長

松田教育長です。

○松田克彦教育長

おはようございます。きょうはお互い頑張りましょう。

○安積司調査課長

2列目、先ほどごあいさついたしました、市議会 今里議長です。

○今里朱美議長

はい。よろしくお願いたします。

○安積司調査課長

市議会 三輪副議長です。

○三輪敏之副議長

はい。おはようございます。

○安積司調査課長

議会運営委員会 坂本委員長です。

○坂本学議会運営委員会委員長

おはようございます。きょうは緊張せずに、リラックスしてやってください。

○安積司調査課長

同じく、議会運営委員会 常盤副委員長です。

○常盤真功議会運営委員会副委員長

おはようございます。よろしく申し上げます。

○安積司調査課長

次に、右側の席をご紹介いたします。

総務委員会 駒田委員長です。

○駒田かすみ総務委員会委員長

おはようございます。よろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

同じく、総務委員会 井上副委員長です。

○井上太良総務委員会副委員長

はい。よろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

文教・子育て委員会 松岡委員長です。

○松岡廣幸文教・子育て委員会委員長

はい。おはようございます。ぜひこの中からこの議場へ座りに来ていただくこと、そんな子が出てくることを楽しみにして、きょうはやらせていただきます。お願いします。

○安積司調査課長

同じく、文教・子育て委員会 竹尾副委員長です。

○竹尾浩司文教・子育て委員会副委員長

おはようございます。頑張ってください。

○安積司調査課長

次、2列目です。

厚生委員会 有馬委員長です。

○有馬剛朗厚生委員会委員長

はい。おはようございます。よろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

経済観光委員会 梅木委員長です。

○梅木百樹経済観光委員会委員長

はい。よろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

同じく、経済観光委員会 汐田副委員長です。

○汐田浩二経済観光委員会副委員長

はい。おはようございます。本日は皆様方のご意見を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

建設委員会 重田委員長です。

○重田一政建設委員会委員長

おはようございます。本日はよろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

同じく、建設委員会 妻鹿副委員長です。

○妻鹿幸二建設委員会副委員長

はい。おはようございます。よろしくお願いいたします。

○安積司調査課長

それでは、これから高校生議会の議長にバトンタッチしたいと思います。高校生議長は、あらかじめ選出していただいております飾磨高等学校、樫原恵利花さん、議長席のほうへ移動いただきますようお願いいたします。

高校生議長あいさつ

○樫原恵利花議長

おはようございます。

開会に先立ちまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日ここに、平成30年度姫路市高校生議会在が招集されましたところ、高校生議員の皆様、そして市議会議長様、副議長様、議会運営委員会の委員長様、副委員長様、各常任委員会の委員長様、副委員長様、並びに石見市長を初め、市の幹部の皆様には、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、市内の高等学校のうち5校から33人の高校生議員が参加し、各グループの代表7人が姫路市の施策に対する質問を行う予定となっています。

答弁者の皆様におかれましては、高校生議員が各グループで真剣に議論し、考えた質問や提案であることをご理解の上、真摯にご答弁いただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のあいさつとします。

△午前9時52分開会

○樫原恵利花議長

ただいまから、平成30年度姫路市高校生議会在を開会します。

これより本日の会議を開きます。

これより日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程に記載のとおりであります。

日程第1

議席の指定

○榎原恵利花議長

まず日程第1、議席の指定を行います。

議席は議長において、ただいまご着席のとおり指定します。

日程第2

会議録署名議員の指名

○榎原恵利花議長

次に日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、

姫路東高等学校 中正 紫音 議員

姫路高等学校 北野 咲希 議員

飾磨高等学校 岩口 敦 議員

を指名します。

日程第3

会期の決定

○榎原恵利花議長

次に日程第3、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

今回の高校生議会の会期は、本日1日間としたいと思えます。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○榎原恵利花議長

ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

日程第4

一般質問

○榎原恵利花議長

次に日程第4、一般質問を行います。

発言の通告に基づき、指名します。

登壇の上、ご発言願います。

飾磨高等学校 藤井 翔樹 議員

喜多 壱成 議員

中尾 好伸 議員

矢内 冴暁 議員

以上、4人の高校生議員を代表しまして、14番 藤井翔樹議員。

○藤井翔樹議員 (登壇)

姫路市立飾磨高等学校3年藤井翔樹です。

私からは、1つ質問をさせていただきます。

それは、姫路市のPR方法についてです。

姫路市を大々的にPRするために企業、宿泊施設等と連携することを検討してみてもどうかということについて質問させていただきます。

現在、姫路市は、姫路城の大改修が終わり、駅周辺では公共交通と一般車を完全に分離し、一般車東西両側で乗降出来るようにすることで、交通混雑の解決を図ったり、さらには屋根の設置により、雨に濡れることなく、バスやタクシー等に乗り換えが出来るようになりました。だれもが安全で快適に利用できる駅前広場へと変化しています。

また、私たちが子どものころと比べるとピオレ姫路ができたり、住宅宿泊事業ができたりと発展の最中にあります。それに伴い、交通の便や宿泊施設の整備や増強で、観光面においても強化されつつあります。しかし、そのような中でも課題があります。姫路市の平成29年度姫路市入込客数・観光動向調査報告書によると、姫路城に観光に訪れる外国人観光客の94.8%が宿泊しているのにもかかわらず、姫路市に宿泊している観光客はそのうち9%のみとなっており、ほとんどの外国人観光客が他県に宿泊するなど、姫路市に訪れた観光客が最終的に他県に流れていってしまいます。また、姫路市はさまざまな観光施設はありますが、姫路城の存在感が大き過ぎるために、ほかの魅力が伝わりにくい傾向になっています。平成29年度姫路市入込客数・観光動向調査報告書によると、平成29年度の姫路城周辺の施設の入込人数は合計300万人にもかかわらず、手柄山周辺では43万人、書写山周辺では23万人と大きく差があり、その理由はそもそも認知度が低いことが原因であると考えられます。

今日、世界各国でも観光客の獲得のため多種多様な政策が行われています。デンマークの自治領であるフェロー諸島では、グーグル社のストリートビュー誘致のために、「シーブビュー」というものを作製しました。それは羊にカメラを取りつけ、フェロー諸島の風景を撮影させるというものです。これは、フェロー諸島の住民と観光局が主体となり行われ、後に、グーグル社

から機材の提供も受けました。この政策により、フェロー諸島は「世界で最も憧れる島」と呼ばれるほど認知度を高め、その絶景を見に来る観光客も大きく増加しました。日本でも市が主体となってPRを行い、経済効果を上げた市があります。長野県小諸市では、地域の魅力を発信することを目的としたPR動画が制作されました。このPR動画は3作品あり、YouTubeでの動画再生回数が合計4万5,000回を超えるヒット作となりました。これにより、ふるさと納税が約9,000万円と、例年の7倍以上に増加しました。高い経済効果を生み出し、認知度も高くなったことにより、今後の地域発展にも拍車がかかるのではないかと考えられます。

以上を参考にし、姫路市でも市が主体となって大々的に宣伝するのはどうでしょうか。

具体的には、昨年10月に行われた、姫路市主催のドローンによる施設点検の実証実験を参考にします。従来のドローンに使われていたカメラでは、設定を変更する場合、一度帰還させる必要がありましたが、この実証実験で遠隔制御システムを使用することにより、フライト中でも設定を変えることが可能になりました。これにより、被写体との距離を保ちながらも高精細の画像を撮影できるようになりました。この技術を観光の面でも利用します。このドローンを用いた実験に参加された企業などと連携し、太陽公園や書写山圓教寺などを間近でドローンで撮影することにより迫力ある映像を作製します。また、白鳥城などの大きく見ばえがいい建物を上空から撮影を行います。その後、撮影した姫路市の魅力をライブや動画で配信などを行ってみてはどうでしょうか。そのほかにも、ドローンだけでなく、観光地に最近はやりである「インスタ映え」を狙った観光スポットを設置し、InstagramやTwitterなどのSNSで大々的に宣伝したりすることで、姫路市の観光地をより知っていただくと考えます。また、姫路市を観光するバスツアー等を旅行会社や宿泊施設と連携し、催行します。そうすることにより、より姫路市を知ることができ、また、効率よく観光することも可能であると考えられます。

以上の理由から、姫路市がもっと企業等と連携すれば、姫路市を訪れる観光客もふえ、また宿泊者も増加

すると考えられるため、姫路市が企業と連携し、大々的にPRすることを検討してはいかがでしょうか。

私からの質問は以上です。前向きな回答をお願いいたします。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

石見市長。

○石見市長（登壇）

藤井議員のご質問中、姫路市のPR方法についてお答えいたします。

SNSや旅行サイトなどの口コミ等によって情報がリアルタイムで世界中に伝わる時代においては、行政と民間企業が垣根を超えて、訪れる人に感動していただくための観光メニューづくりや観光客のニーズに合った新鮮な情報を発信していくことは、とても重要であると考えております。

世界遺産姫路城の平成29年度の外国人入城者数は約35万人を数え、姫路城の入城者に占める外国人の割合は、18.8%に上るなど、平成27年3月のグランドオープン以降、年々外国人入城者の割合は増加しております。増加傾向にある外国人観光客の訪日目的は、以前の買い物中心の「モノ消費」から、日本ならではの体験や思い出を求めるいわゆる「コト消費」に変わってきております。

また、姫路駅周辺では、新たなホテルが建設され、ビジネス客だけではなく修学旅行を初め、観光客の受け入れ体制も整いつつあります。

そのような環境の変化の中、本市では、世界遺産姫路城を初め、日本遺産銀の馬車道や市内の観光施設はもちろん、食や体験、歴史、文化、物語といった地域資源を十分に活用し、PRすることにより、観光客の滞在時間の延長や満足度の向上を目指しております。

具体的には、民間企業との連携により、観光客の好みや傾向などを把握している外国人の専門家の意見を取り入れ、書写山圓教寺での座禅体験や好古園でのお茶席体験を初めとする市内の魅力的な観光メニューを、パンフレットへの掲載やウェブサイトでの動画発信などでPRに努めております。

また、本市には、行政とともに姫路の観光振興に取り組んでいる公益社団法人姫路観光コンベンションビ

ューローがあり、民間企業と行政の橋渡し役として、宿泊事業者と一体となった修学旅行の誘致活動を初め、観光関連事業者が多く参加する商談会を実施するなど、幅広くきめ細かい事業を実施しております。

そのほか、本市のPRに関しましては、平成30年3月から、公式インスタグラムを開設し、姫路の知られざる名所や風景、姫路ならではの地元食材を使用した料理などを広く皆さんから投稿していただき、姫路の魅力を国内外に発信しているところです。また、より多くの方に投稿への関心を持っていただくため、姫路のよいところが伝わる写真を投稿していただいた方には、地元の民間企業と連携して姫路の地場産品をプレゼントしております。

観光業は、宿泊、交通、おみやげ、飲食など、多種多様な観光関連事業にかかわる民間企業と行政の、官民の垣根を超えた緊密な連携のもとで、初めて地域の産業として成り立つものです。

本市では、さまざまな観光関連に携わる民間企業との連携のもとで、国内外からの観光客の方々に、また姫路を訪れたいと感じていただけるよう観光客の満足度向上に向けた取り組みを引き続き進めてまいります。その中で、議員から素晴らしいご提案をいただきましたドローンで撮影した迫力ある映像の配信や「インスタ映え」を狙った観光スポットの設置などにつきましても、民間企業とも一緒に知恵を絞って頑張っておりますので、議員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

以上でございます。

○榎原恵利花議長

以上で、飾磨高等学校 藤井翔樹議員の質問を終了します。

姫路高等学校 鍛田 光希 議員
志賀 有紗 議員
中村真里杏 議員
木村 美月 議員
辻元彩也夏 議員
平山 知奈 議員
結城 潮音 議員

以上、7人の高校生議員を代表しまして、3番 鍛田光希議員。

○鍛田光希議員（登壇）

こんにちは。姫路市立姫路高等学校1年の鍛田光希です。

私たちからは1つ質問させていただきます。それは、姫路市の児童虐待についてで、母親の子育てに対する不安や悩みを解消でき、一時的に子ども保護も可能な施設を設置してはどうかということです。

2017年に姫路市は、「育児放棄のおそれがある」と連絡を受けて、その夫婦宅に訪問した際に不在だったため、市は緊急性が低いと判断しましたが、その夫婦の虐待によりその息子は重傷を負いました。この事件で姫路市は会見で、判断が甘かったと不手際を認め、一時保護の緊急性を判定する手順などを見直し、事件の発生の原因をいち早く特定することで原因に見合った処置ができ、再発の可能性を減少させるという方針を示しました。

近年、姫路市では児童虐待の相談件数が増加傾向にあります。実際、子どもを一時的に保護されている姫路市内の施設にお話を伺ったところ、中播磨と西播磨地域の中で児童虐待は、児童人口65.8%を占める姫路市が465件、78%で最多だということがわかりました。中でも心理的虐待が60.7%を占めます。

児童虐待にはリスク要因があります。まずは保護者側のリスク要因で、主に若者の望まない妊娠があります。若者の育児に対する知識や技術不足が原因となり、そこからストレスが生まれ、虐待が起きることがあるかと思います。そこで私たちは、そういった若者が1人で育児に苦勞するのでなく、もっと周囲の人たちに協力してもらえ環境が必要だと考えました。

次に、養育環境のリスク要因があります。主に親族や地域社会から孤立した家庭、経済的に不安定などがあります。また、母親たちの育児に対するストレスや不安もあると伺いました。母親にストレスがたまることで、子どもに当たってしまったりすることなどが考えられます。例えば赤ちゃんの夜泣きです。母親は夜泣きのせいで睡眠時間が削られ、産後うつを発症するなどの可能性が高くなり、それが虐待へとつながることもあるのではないかと考えました。

これらを踏まえて、無償で子どもを保護してくれる施設を設置し、母親たちに休息する時間を与えること

により児童虐待を防止できるのではないかと考えました。そこで私たちは、小学生を対象とした、最大1年間保護可能な施設の設置を考えました。小学生を対象とする理由は、小学生にとって親は絶対的な存在であり、逆らうことができない子が多いと思ったからです。この施設に子どもを保護された親族には、その中の1人以上に月に1回、講習に参加してもらいます。講習では、育児をするに当たっての心構えや、周囲の人たちがサポートできることを教えます。「育児はみんなで協力してするものだ」という意識を根づかせ、育児に積極的に協力してもらうための講習をしたいと考えています。また、講師の方に無料相談を受けることもできるようにします。

なお、2回目以降の受け入れについては、保護期間を最大半年とし、施設での生活費は保護者が負担するようにします。これによって、両親に「もう虐待をしない」という気持ちを形成させることができるのではないかと考えました。

これらを踏まえて、姫路市では児童虐待を減少させるためにも、一時的に子どもを預けられて、育児に対して不安や悩みを持っている母親たちの相談窓口になるような施設の設置を検討すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

私からの質問は以上です。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

松岡文教・子育て委員会 委員長。

○松岡廣幸文教・子育て委員会委員長（登壇）

姫路高校、鉢田光希議員のご質問についてお答えをさせていただきますと思います。

大変多角的に鋭い質問を頂戴をしたというふうに思っております。主に若者の望まない妊娠があるというようなご指摘、また、段階的には養育環境のリスク要因等、非常に真摯に今の現状を見つめられてのご質問に改めて敬意を表する次第でございます。ただ、望まれない妊娠につきましては、この高校生議会、皆様方もぜひこれからそういったことに真摯に思いをはせていただきまして、1人でもそういった不幸な子どもが誕生しないように、一生懸命考えていただきたいということもあわせてお願いをする次第であります。

本市の児童虐待にかかわる相談受け付けは、市民の虐待への関心の高まり等により、増加傾向にあります。このような中、児童虐待の発生予防という観点から、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が不可欠となっており、各市町の子ども家庭総合支援拠点を中心となって、保健センター、児童相談所、保育所、学校等の関係機関が連携をして、児童虐待発生時の迅速な対応や在宅支援の充実強化を図ることが重要となっております。

特に、昨今幼い命を救い出すことのできなかつた事案が多発していることにかんがみ、本市におきましても、昨年4月に設置をいたしましたこども家庭総合支援室で、児童虐待の予防から自立支援までの継続的な支援に取り組んでいるところです。

具体的には、子どもへのかかわり方に悩んだり問題を抱える保護者に対し、妊婦の時期から、保健センターの保健師が、医療機関等と連携して出産後の適切な養育に向けての助言・指導を行い、出産後、虐待リスクの高いケースについては、こども家庭総合支援室が引き継いで、子どもの養育環境や保護者のニーズ等に応じた最善の方法で課題解決が図られるよう、個別の支援計画に基づいた支援を実施しております。

さらに、育児不安や育児疲れのある保護者の負担軽減、いわゆるレスパイトのため、乳児院や児童養護施設へ一時的に子どもの養育を委託しております。また、虐待のリスクが高く見守りが必要な子どもについては、在籍する学校と連携を図ったり、保育所やこども園へ優先的に受け入れるなどの家庭支援を行っております。

これらの継続的な支援を通じて、子どもの安全確認が必要な場合は、姫路こども家庭センター等の関係機関と連携して、すみやかに一時保護等の対応に当たっております。

今後は、ことし4月、市役所西隣に開設する姫路市総合福祉会館に、こども家庭総合支援室を含めた、福祉にかかわる相談窓口が集約・一元化されることから、多職種連携による総合的な相談支援体制の充実を図ってまいります。

加えて、職員一人一人の専門性のより一層の向上に努めて、各家庭のニーズに寄り添った支援を行うことにより、子どもの命を守る児童虐待防止対策の強化を

図ってまいります。

以上でございます。

○榎原恵利花議長

以上で、姫路高等学校 歟田光希議員の質問を終了します。

姫路東高等学校 石田 航平 議員

中正 紫音 議員

前田 真佑 議員

以上、3人の高校生議員を代表しまして、22番 石田航平議員。

○石田航平議員（登壇）

姫路東高等学校2年石田航平です。

私からは、2つの質問をさせていただきます。

まず1つ目は、姫路市立図書館における学習スペースの設置について質問させていただきます。高校は中学校と比べると、授業時間数がふえ、部活動の時間も長く、通学にも時間がかかるので忙しいと感じる高校生は多いと思います。高校生は勉強がメインですが、睡眠時間も確保しないといけないので、家での学習時間が徐々に少なくなってしまうと思います。忙しさだけが原因とは言いきれませんが、高校生になって勉強に対するモチベーションが低くなっていくことは問題だと考えました。また、高校受験で燃え尽きてしまい、なかなか次の目標に向けて動き出せない友達もいます。そこで、学生が気軽に利用できる、かつ集中して学習に取り組めるような施設を設けることで、互いに刺激し合ったり助け合ったりすることができるのと同時に、モチベーションアップが期待できるのではないかと考えました。しかし、昨年高校生議会でも議論されたように、新たな学習施設の設立は難しいと考えられることから、既存の建物を利用したいと考えました。そこで、姫路市立図書館に学習スペースをつくってはどうかと思います。現在、館内での学習は禁止されています。私の通う学校では図書館に足を運んでみたものの、学習ができなかったのであらかじめ帰宅した経験のある人がたくさんいました。私自身もそのような経験をしたことがあります。しかし、館内の雰囲気や静かさはとても心地よく、集中しやすい環境であるため、本を読むことに加え、勉強にも利用したいと思いました。また、平成29年1月に明石市立図書館がリニューアル

されました。そこでは学習エリアというスペースが設置され、だれでも学習に利用することができるようになっており、終日人が絶えないほど利用されています。姫路市立図書館にもぜひそのような仕組みを取り入れ、多くの高校生が学習のために利用できるスペースを取り入れてほしいと思いましたが、いかがでしょうか。

次に2つ目は、姫路市高校生交流会の実施について質問させていただきます。

近年、AIの普及やグローバル化などにより、みずから考えて動くための思考力と判断力はもちろん、一面的な視点からではなくさまざまな視点から物事を観察して本質を見抜く力や、考えを自分の言葉でまとめて伝える表現力など、勉学とはまた違う能力も必要になってきました。さらに、選挙権が18歳以上に変更され、私たち高校生もいよいよ社会人となります。だれかに甘えられる時期はもう終わり、これからは自分の思い、考えを持つ必要があります。しかし、高校生でなかなか自分の意見を持っている人は少ないと思います。高校生の期間に自分の考えをまとめるためには自分とは別の考えを持った人や、自分にはない経験のある人などと意見交換をする機会が多く必要だからです。私は昨年11月10日に開かれた高校生座談会に参加しました。市内から4校の代表が集まり、「姫路が活性化するには」というテーマでディスカッションを行いました。姫路が活性化するためには経済が潤うことが1番だと私は考えていましたが、ディスカッションの中でさまざまな人の話を聞き、市民が幸せに暮らすことこそが活性化につながるのかもしれないという考えも生まれました。1時間30分という短い時間でしたが、人生観や価値観、世界観が広がったように思います。

このように1つのテーマに対して自由に意見を出し合う場をふやすことで、自分と異なる人の意見に触れることができ、新たな自分の意見を生み出すことにつながると思います。

具体的な案としては、夏休みの期間を利用し、B I Z S P A C E などをお借りし、姫路市内の高校から学年ごとに代表者を2名ずつ募ります。選ばれた代表者は1つのテーマに対して、例として、姫路市に関する課題や理想、高校生にできることを自分の考えを持った状態でその交流会に参加します。実際に交流会が始

まるとグループに分かれてディスカッションを行います。その後、グループでまとまった考えや、出た意見を全体の場で発表して、そこでも意見を共有したいと考えています。さらに、代表者は交流会で得た意見や考えをそれぞれの高校へ持ち帰り、発表する機会を設けてほしいと思います。そうすることで、より多くの高校生が自分の考えをまとめるきっかけになるはずで

す。限られた友達やクラス内といった狭い範囲だけでなく、学校の枠を超えて広い範囲で交流ができる機会を設けることで、自分と向き合い、これからの時代に必要なコミュニケーション能力、論理的思考と表現力を養うことができるのではないかと考え姫路市高校生交流会の開催を提案します。

私からの質問は以上です。姫路市立図書館における学習スペースの設置、姫路市高校生交流会の実施について、ご回答をお願いいたします。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

松田教育長。

○松田克彦教育長（登壇）

まず、1項目めの姫路市立図書館における学習スペースの設置についてでございますが、姫路市立図書館では、現在、第3次姫路市子ども読書活動推進計画に基づき、高校生が図書館を積極的に利用できるような仕組みづくりとしまして、高校生が主体となって企画した展示やイベントを支援し、読書を通じて交流できる場を提供するよう努めております。

ご提案の図書館内に学生のための学習スペースを設置することにつきましては、公共図書館は、子どもから大人まで、あらゆる世代の市民に平等に情報と学びの場を提供することを目的としており、閲覧席は、図書館の本を読んでいただくスペースとして設置しております。

現在、城内図書館、市内の各図書館分館とも、まず図書館内に十分な閲覧スペースを確保することを念頭に置いており、現在の閲覧席等を学習スペースとすることについては、難しいと考えております。

ただし、広畑分館や網干分館など一部の分館では読書室を設置しており、小スペースながら図書館の本を

読んでいただくだけでなく、学生の自習や就職試験、仕事等のスキルアップの場として、あるいは定年退職後のライフワークの勉強の場としてなど、広く市民にご活用していただいております。

また、城内図書館におきましては、今後、改修工事を予定しており、その中で、閲覧スペース等の確保についても検討していく必要があると考えています。

次に、2項目めの姫路市高校生交流会の実施についてでございますが、平成27年6月に選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、高校生にとって政治や社会がより一層身近なものとなってきております。また、20年後の社会は、AIの発達により、今ある仕事の多くがなくなるであろうと言われております。そのような中、多様な考え方に出会い、主体的に判断しながら自分の考えを構築していく力が求められています。

ご提案の高校生交流会につきましては、さまざまな意見を聞き、対話することにより価値観を共有することが可能になる有意義な会であると考えております。姫路市教育委員会としましては、開催のための会場の提供や広報等への支援をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○榎原恵利花議長

以上で、姫路東高等学校 石田航平議員の質問を終了します。

姫路工業高等学校 釣田 大河 議員
吉川 渚 議員
辻 瑠貴亜 議員
川嶋 望愛 議員

以上、4人の高校生議員を代表しまして、7番 吉川渚議員。

○吉川渚議員（登壇）

県立姫路工業高校溶接科3年吉川渚です。よろしくお願いたします。

私からは、地場産業と高校生のかかわりについて、2つの質問をさせていただきます。

1つ目は、姫路市の地場産業に関する情報発信についてです。

姫路市が推進している「ふるさと・ひめじプラン2020」に掲げる創造的ものづくり力の強化のために、

姫路市内に通う高校生や中学生、小学生などの若者が参加できる企画を検討してはどうかということについて質問させていただきます。

姫路市の都市づくりの基本理念の中に「歴史・文化との共生」があります。先人がはぐくんできた姫路市の地場産業は大切な歴史や文化の1つです。私たち若者が伝統ある地場産業を未来に引き継ぐ役割を担うことが大切だと考えます。そのためには、地場産業にかかわる職業への就職者をふやすことが重要です。

姫路工業高校では、2年生全員が卒業後の進路を本格的に考えるために、姫路市を中心とした多くの企業の協力を得てインターンシップを実施しています。しかし、平成27～29年度の3年間の就職者の72%が姫路市外の企業に就職しています。なぜ72%もの本校生が市外の企業を希望し、地域独自の特産品を製造している地場産業に就職しないのかを考えました。

その理由として、地場産業を知る機会が少ないことが挙げられます。例えば、1,500年の歴史を誇る姫路の皮革産業です。姫路工業高校デザイン科では、皮革組合と連携してかばんや洋服などを製作しています。昨年の「ジャパンレザーアワード2018」学生部門では最優秀賞に輝いた生徒もいます。このように、みずから製作に携わることで革のよさや製造工程、製品のすばらしさなどを知ります。しかし、携わる機会のない若者たちは姫路市の皮革産業を知ることなく進路選択をしてしまいます。これは皮革産業だけではなく、ほかの地場産業についても同様のことが言えます。鎖やマッチ、ゼラチンやボルトナットなども姫路市で生産され、国内外で利用されています。このようなすばらしい地場産業のことを姫路市内の若者たちはどれくらい知っているのでしょうか。

地場産業に関する情報が、若者たちに触れやすいように工夫をすべきです。現在、革を初めとした地場産業に関するガイドブックやイベント情報は観光案内所や市役所などに置かれています。しかし、高校生がこれらの場所に立ち寄ることは少ないのです。そこで、それらを駅周辺の商業施設や市内の高校にも置けば、高校生が地場産業の情報を目にする機会がふえます。

ぜひ、姫路市が推進している「ふるさと・ひめじプラン2020」に掲げる創造的ものづくり力の強化のため

に、姫路市内に通う高校生や中学生、小学生に地場産業を紹介するイベントや体験できる環境を整えることを検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

2つ目は、地場産業に係る求人と起業・創業支援制度の広報についてです。

地場産業の現場を見学・体験できるイベントや合同説明会を開催するなど、高校生にもわかるようなアピール方法の工夫と、将来起業を考えている若者に対する情報提供について質問させていただきます。

「地場産業は家業」というイメージが強いことから、どのように携わることができるのかわからないのが現状です。地場産業を就職先の1つとしてアピールするために、地場産業の現場を見学・体験できるイベントや高校生向けの合同説明会を開催してはいかがでしょうか。事前に高校生の参加者を募り、シャトルバスを出すようにします。自家用車の運転ができない高校生にとって公共の交通機関が不便な場所に行くことは難しく、シャトルバスがあれば高校生も参加しやすくなります。

また、高校生の就職活動の多くは、ハローワークを通じて高校あてに出された求人票に対して応募する形で行われています。したがって、高校あてに求人票が出されていない企業への応募は非常に難しいです。就職先がなければ高校生が地場産業の担い手になることはできません。ぜひ、地場産業にかかわる企業がハローワークを通じて高校にも求人票を提出するように働きかけてほしいと思います。

さらに、地場産業にかかわる事業を起業しようと考えている若者に対して、起業に必要な場所や資金などの支援制度の情報がわかりにくく感じます。現在、姫路市には創業セミナーを初めとする起業・創業支援制度や相談窓口があることを高校生にもわかるようにアピールすることが必要です。高校卒業後すぐに起業を考える人はまれですが、市外で就職・進学をしてさまざまな経験を積んだ後に姫路市で起業したいと考える若者はいると思います。高校卒業までに地場産業について学び、姫路市に支援事業があることを知っていれば、就職のほかに起業するという選択肢が加わります。選択肢がふえることは、若者が姫路市に戻り地場産業に携わるきっかけになります。

このように、将来の進路について考えている高校生や起業・創業を考える若者が姫路市の地場産業に関する情報を簡単に入手でき、体験できるアピール方法を工夫することを検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

若者の就職先として地場産業が定着すれば高度な技術を持った若い職人を育てることができ、若い職人が育てば姫路市が活気づくとともに、若者にとっては仕事に対する誇りもおおのずと生まれます。このように、地場産業が発展すれば、「風格と活力ある歴史文化・産業都市」の実現につながると強く思います。

私からの質問は以上です。よろしくお願ひいたします。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

黒川副市長。

○黒川優副市長（登壇）

議員ご質問中、私からは地場産業と高校生のかかわりについてお答えを申し上げます。

まず、1点目の姫路市の地場産業に関する情報発信についてでございますが、本市には11業種の地場産業があり、地域経済の重要な担い手であると認識をいたしております。しかしながら、社会環境や経済情勢の変化により業績が悪化している業種があり、また、後継者不足に悩んでいる事業者がおられることも事実でございます。

そのような中で、若い世代の皆様が地場産業に関心を持っていただいていることを大変うれしく思っております。

ご指摘のとおり、地場産業の振興のためには、まず知っていただくことが重要であると考え、姫路の地場産業を紹介するパンフレット「地場自慢」を姫路駅の観光案内所等で配布をいたしております。また、姫路市立の小・中・高等学校にも配布をしており、授業で使用していただいている先生もおられると伺っております。しかしながら、県立や私立の学校には送付しておりませんので、今後は姫路市立以外の市内の学校へも積極的に情報提供してまいりたいと考えております。

また、実際に地場産業を見て、体験していただく機会をいたしまして、今年度から清酒、菓子、皮革、マ

ッチなどの地場産業の現場をバスに乗って1日に2～3カ所巡り体験を行う、「じばさんツーリズム」を実施をいたしております。来年度には学生や親子連れの方も参加しやすいように、夏休みにも実施するよう計画をしておりますので、多くの高校生の方にも参加していただきたいと考えております。

次に、2点目の地場産業に係る求人と起業・創業への支援制度の広報についてでございますが、求人につきましては、地場産業の事業者には若手の就労者不足や後継者不足に悩んでいる方もおられることから、ハローワークを通じての求人票の提出や、高校の就職・進路指導担当者と企業の採用担当者との合同説明会への参加を促してまいります。

また、起業・創業への支援制度についてでございますが、この制度は地場産業を含む幅広い業種を対象といたしております。少子化による人口減少が懸念される中、市内で創業される方がふえることは、まちの活性化につながる非常に重要なことであると認識をいたしており、創業支援につきましては特に力を入れて取り組んでおるところでございます。本市が支援しております姫路商工会議所内の姫路創業ステーションや創業セミナーを活用した創業者が年々ふえてきております。具体的に申し上げますと、平成29年度のステーション相談件数は737件、セミナー参加者は133名、創業者は155名となっております。

また、来年度から新たに、市内の大学や高校と連携をいたしまして、大学生や高校生など、これまで創業・起業を考えたことがない方を対象に、創業に興味を持っていただき、創業の魅力や基礎知識を学んでいただく機会として、セミナー形式の創業機運醸成事業を実施する予定でございます。加えまして、その機会をとらえて本市の創業支援制度につきましても周知してまいりたいと考えております。今後とも姫路の地場産業を若い世代に知ってもらえるようPRに努めるとともに、姫路市内で就職、創業をしていただけるよう工夫を重ね、若い世代の皆さんの力が発揮できる「風格と活力ある歴史文化・産業都市」の実現に向けて、全市を挙げて取り組んでまいります。

以上でございます。

○榎原恵利花議長

以上で、姫路工業高等学校 吉川渚議員の質問を終了します。

日ノ本学園高等学校 中野 唯 議員

沖村かえで 議員

永井 咲良 議員

以上、3人の高校生議員を代表しまして、10番 中野唯議員。

○中野唯議員（登壇）

日ノ本学園高等学校1年中野唯です。

私からは、日ノ本学園の生徒を代表して質問を1つさせていただきます。

高校生が大きな災害のとき、安全に帰宅するには何が必要か、大きな災害時に、高校生が安全に帰宅できるように、主要幹線道路のコンビニエンスストアや企業などと連携を深めておくのはどうかということについて、質問させていただきます。

私は、総合的な学習の時間に、「自分と家族を守る防災学習」というグループで、防災について学習を進めています。そんな中、大きな災害が起きたときには、学校や会社に行っていた人が家に帰れなくなる帰宅困難という被害があることを知りました。実際、去年は大きな台風や雨、地震の影響で、学校が休校になることがとても多くありましたが、播但線を使って通学する生徒が7割くらいある日ノ本学園では、JRがとまったために休校になったこともありました。

大きな災害が起こったときには、慌てず騒がずに落ち着いて行動することが大切です。日ノ本学園は耐震化の工事が終わっているところなどを、姫路市の避難所として登録しているので安全だと思います。しかし、高校生だけで500人を超える生徒が何日も泊まることは難しいと思いますし、早く家族の顔を見て安心したいと思います。

姫路市や神戸市のホームページなどを見ると、帰宅困難という被害に対する取り組みなどが紹介されていますが、姫路市の場合は姫路駅からの帰宅を想定していて、日ノ本のような遠くにある高校からの生徒の帰宅について考えてもらえるのは、まだまだ先のような気がします。

そこで、日ノ本学園だけでなく、播但線を使って通学している生徒がいる香寺高校や福崎高校、神崎高校、

市川高校などの生徒が、安全が確かめられた後、徒歩などで帰宅するときに、国道312号線の沿線にあるコンビニエンスストアや企業などに協力してもらって、連絡場所の確保やトイレを貸してもらおうなどの連携を考えてみてはいかがでしょうか。また、本校や市川高校のスクールバスを他校の生徒も含めて帰宅に運用できるように考えてみてはいかがでしょうか。

私からの質問は以上です。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

駒田総務委員会 委員長。

○駒田かすみ総務委員会委員長（登壇）

私からは、中野議員のご質問、災害時における学校からの安全な帰宅についてお答えします。

大きな災害時に、高校生が安全に帰宅できるように、主要幹線道路のコンビニエンスストアや企業などと連携を深めてはどうか、とのご提案ですが、高校生に限らず災害時に徒歩などによる帰宅者が安全に帰宅できるよう、環境を整え、適切な避難行動を支援することは、重要な課題の1つであると考えています。

本市では、災害時における被災者への支援や災害応急対策を円滑に実施するため、民間企業とさまざまな協定を締結しており、平成29年には兵庫県石油商業組合姫路支部と協定を締結し、徒歩で帰宅する被災者などに対して、本市が発信する情報や、ラジオ、テレビなどで知り得た情報を提供するとともに、ガソリンスタンドを一時休憩所として水道水やトイレを提供していただくなど、徒歩等による帰宅者への支援体制の確保に努めております。

また、地域防災貢献事業所登録制度を設け、地域防災活動に貢献する意欲のある事業所に本市の要請に基づいて、可能な範囲で避難者へ避難場所や水、食糧を提供いただくなど、事業所の協力によって地域防災力の強化を図っております。平成30年4月1日現在、943の事業所に登録していただいております。災害時における事業所との協力体制を整えています。

さらに、兵庫県を含む関西広域連合において、コンビニエンスストアや外食事業者等と「災害時における帰宅困難者支援に関する協定」を締結されており、協定事業者には、店舗での水道水やトイレの利用、地図

等による道路情報やラジオ等で知り得た通行可能な道路情報の提供など、帰宅支援サービスを行っていただくこととしております。協定では、支援していただく店舗を「災害時帰宅支援ステーション」として位置づけ、統一したロゴマークである「災害時帰宅支援ステーション・ステッカー」を店舗に掲出し、住民の皆さんに広くこの制度を周知しております。平成30年4月1日現在、市内では、コンビニエンスストア228店舗、外食事業者25店舗、物販店23店舗、合計276店舗に登録をいただき、災害時における帰宅困難者の支援に協力をいただける体制が整っております。

今後も引き続き、支援策の充実や周知に努めるとともに、徒歩等での帰宅中の方に対しても確実に情報伝達ができる体制の整備に取り組むなど、災害時における帰宅困難者の支援体制を整えていきたいと考えています。

最後に、災害時のスクールバスの代用についてでございますが、私立高校のスクールバスの運用につきましては、主体は学校にありますので、自主的な災害時の運用について、検討を呼びかけていきたいと思いません。

以上でございます。

○榎原恵利花議長

以上で、日ノ本学園高等学校 中野唯議員の質問を終了します。

姫路高等学校 森本 萌咲 議員

北田 彩菜 議員

北野 咲希 議員

(本人の希望により削除)

柳田 菜緒 議員

植山 知香 議員

以上、6人の高校生議員を代表しまして、27番 森本萌咲議員。

○森本萌咲議員 (登壇)

こんにちは。姫路市立姫路高等学校1年の森本萌咲です。

私たちからは、姫路市の美化活動の活性化について質問させていただきます。

姫路には姫路城という世界に誇れる文化遺産があり、姫路には国内外からたくさんの観光客の方々に来てい

ただいています。ところが、このまちでは路上に捨てられてそのまま放置されたごみが少なからず目につきます。私たちは少しでもごみを減らし、世界文化遺産・姫路城を有するにふさわしい、美しく清潔なまちにするために何ができるか検討しました。

1つ目は、姫路にふさわしいごみ箱やマナー表示の標識の設置です。ごみ箱や標識といっても私たちが考えるものは、今あるものとは異なり、みずからごみをごみ箱に捨てようという意識が身につくようなユニークなものです。具体的に説明いたしますと、まず、ごみ箱に関しては、投票箱型のごみ箱、ごみを捨てることで効果音や音楽が鳴るごみ箱、アート性があるごみ箱、ARごみ箱などが挙げられます。現在、海外で実際に設置されているARごみ箱の例としては、ごみを捨てるごみ箱外側のディスプレイにLEDライトが点灯してテトリスが始まるごみ箱があります。これは、ごみ箱にごみを捨てるとテトリスができるという、遊び要素と環境への配慮を意識させることを融合したものです。このようなごみ箱を設置するだけで、ごみ捨てに対するマナーやモラルが向上するのではないかと考えました。

次に、マナー表示の標識に関しては、ただ単に文字で表現したのではなく、海外のストリートアーティストとして幅広く活躍されているバンクシーさんのように、記号や絵を用いることですぐれたデザイン性を持たせ、一目で見た人に伝わる標識が挙げられます。そこで、私たちは姫路市出身のデザイナーやアーティストの方々に依頼して、従来のもとは一味違う、姫路のまちにふさわしいごみ箱や標識を設置してみようかどうかという考えに至りました。ファッションデザイナーの登竜門である装苑賞を初め、数々の賞を受賞しておられる高田賢三さんのように、業界の第一線に立ち続けておられるすばらしいデザイナーやアーティストの方が、姫路にはたくさんおられます。そのような方と連携すれば、まちの美化にとどまらず、話題性も十分に生まれるため、SNSが普及している現代の世の中において、姫路のPRにもつながるのではないかと考えます。アート性やデザイン性を重視したものでもなく、例えば、ごみを分別して捨てればポイントがたまるシステムをつくり、そのたまったポ

イントと市内施設の無料入場券やご当地商品とを交換できるようにすれば、美化に対する高い意識を持つ方がふえる上、市内施設やご当地商品をより多くの方に知ってもらえるようになるのではないのでしょうか。

2つ目は、働く意欲がある高齢者の方や、仕事が見つからずに困っている方に、まちの清掃活動に従事してもらおうという提案です。近年、人工知能（AI）など先端技術の開発が飛躍的に進み、私たちが従事できる職業の幅が狭まってきていると感じます。そのため、この活動をフレックスタイム制のような変形労働時間制の形で導入すれば、美化活動の活性化はもちろん、高齢者の雇用促進や失業者対策など複合的な効果が得られると考えました。この清掃活動は、ボランティア活動ではなく、姫路市が給与を支給する労働であるため、無駄な歳出とならないよう、監視の目を行き届かすことも大切だと思います。そこで、清掃活動に従事する者の居場所をいつでも把握できるように、GPS機能を搭載した電子機器を従事者全員に持たせるなどの環境整備も必要になると考えます。また現在、姫路城清掃奉仕活動（愛城会）、みどりの美化キャンペーン、まちかど100メートルクリーンアクションなどの清掃イベントが実施されていますが、このような活動にとどまらず、ごみ問題に少しでも関心を持ってもらうために、園児・児童・生徒や一般の方々が、エコパークあぼし、市川美化センターなどのごみ処理施設を見学したり、そこで実際に行われている作業を体験したりできるイベントを企画・運営してみたいはいかがでしょうか。

以上の提案を実現させることにより、私たちの住むこの姫路はより美しいまちになると考えます。

私からの質問は以上です。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

内海副市長。

○内海將博副市長（登壇）

姫路市の美化活動の活性化についてお答えいたします。

近年、姫路市では、国内外からの観光客をおもてなしするのにふさわしいまちを目指して、姫路城の「平成の大修理」や、本市の玄関口である姫路駅周辺の整

備、大手前通りの再整備などの事業を進めてまいりました。

本市を訪れる方々をおもてなしする上で、最も大切なことは、これらのハード面の整備だけにとどまらず、住む人にも訪れる人にも、美しく快適な空間を提供していくことであり、そのためには、散乱するごみのない清潔なまちづくりが必要であると考えています。

そこで、本市では、行政だけでなく、市民の皆さんや、さまざまな企業・学校・団体等により、市内のあちこちで、それぞれの清掃活動を積極的に実施していただいております。以前に比べると、まちが随分ときれいになったと実感する一方で、ごみのポイ捨てが完全にはなくなっていない現実があります。

さて、今回、森本議員のグループから、姫路市の美化活動の活性化について、さまざまなご提案をいただきました。

まず、1点目の姫路にふさわしいごみ箱やマナー表示の標識の設置についてですが、ごみ箱につきましては、以前、大手前通りにごみ箱を19カ所設置していましたが、このごみを毎日回収しているにもかかわらず、ごみ箱からごみがあふれたり、周辺に段ボールや空き瓶・空き缶等が散らかったりしていました。

そこで、平成18年度から、ごみ箱を撤去し、マナーの向上に向けた啓発を強化しましたところ、ごみ箱を設置していたときと比べて、ごみの散乱が減っていくという効果が認められました。

また、その後のアンケート調査や聞き取りの中で、ごみ箱の撤去については、市民や大手前通り周辺の商店街の皆さんからも理解が得られておりますので、本市としましては、まちの美観のためには、基本的にごみ箱は設置しない方がよいのではないかと判断しております。

しかしながら、自らごみをごみ箱に捨てようという意識が身につくようなユニークなごみ箱や、すぐれたデザイン性を持った標識の設置という発想は、話題性もありますし、本市をPRする1つの方法として、非常に面白いものだと思います。

今後、ご提案の視点からのごみ箱や標識の設置につきましては、高校生の皆さんからのアイデアやデザインを募集するということも含めて、改めて研究してみ

たいと考えています。

また、ごみを分別して捨てればポイントがたまるシステムとのご提案につきましては、どのような美化活動をポイント付与の対象にするのか、また、どの程度のポイントで特典と交換できるのかといった課題がありますが、うまく機能させることができれば、ご提案のとおり、本市の美化向上につながるだけでなく、地域経済の活性化への効果も期待できることから、これにつきましては他都市での先進事例の調査や研究をしてみたいと考えています。

次に、2点目の働く意欲がある高齢者の方や、仕事が見つからずに困っている方に、まちの清掃活動に従事してもらうということについてですが、高齢者に対しては、60歳以上で健康に働く意欲のある方を会員とする姫路市シルバー人材センターへ市からさまざまな業務を委託し、その雇用に努めており、その中で清掃活動としましては、大手前通りを初めとする姫路駅周辺の道路等の清掃業務があり、今後もこの業務を継続してまいります。

また、失業者に対しましては、景気の動向を見ながら、市として、これまでに、さまざまな雇用対策を講じており、平成21年度以降では、総額30億円の業務を発注することにより、約3,300人の雇用を生み出す効果がございました。

この中で、清掃活動の一環としましては、繁華街におけるごみの散乱防止等に向けた夜間パトロールを実施しているところです。

次に、ごみ処理施設を見学したり、そこで実際に行われている作業を体験したりできるイベントを企画・運営してみたいとのご提案でございますが、平成29年度、本市のごみ処理施設である市川美化センター、エコパークあぼしへは、あわせて約7,500人の見学者がございました。

エコパークあぼしの見学ルートでは、ごみの分別や処理について、ゲーム感覚で学習していただける工夫もしております。

また、毎年9月下旬ごろには、市民の皆さんとともに、ごみの減量化やリサイクル等を楽しみながら考えるイベントとしまして、大手前公園で「ひめじ環境フェスティバル」を開催しており、本年度は約14,000人

の方にご来場いただいたところでございます。

このイベントでは、ごみの処理について、正しく理解し、関心を高めてもらうため、パネルの展示やクイズのほか、ごみの分別を実際に体験してもらうゲームコーナーなどを設けております。

なお、ごみ処理施設で行われている作業につきましては、さまざまな機械や設備が敷地内において常に稼働しており、また、ごみに誤って混ざっている鋭利なものにより、けがをするおそれもあるなど、相当な危険を伴うことから、実際に体験していただくことは難しいところでございます。

しかしながら、作業を疑似体験できるようなゲームや装置を導入することは可能と思われまして、これにより、1人でも多くの方に見学していただくことができれば、ごみ処理についての理解をさらに深めてもらうことにもつながると考えています。

今後も、さまざまなご提案をいただきながら、市民の皆さんと一緒に、姫路のまちが、より美しくなるような取り組みを進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

以上でございます。

○榎原恵利花議長

以上で、姫路高等学校 森本萌咲議員の質問を終了します。

飾磨高等学校 小林 眞輔 議員
九鬼 恵雨 議員
岩口 敦 議員
大西 寛登 議員
成田 海人 議員

以上、5人の高校生議員を代表しまして、30番 大西寛登議員。

○大西寛登議員（登壇）

姫路市立飾磨高等学校の大西寛登です。

私から1つ質問させていただきます。姫路の食を通じて観光客の増加を確保し、姫路をより活気あるまちにするために食のテーマエリアを建設することを検討してはどうかということです。

姫路には姫路城という魅力ある観光スポットがあります。姫路市が行った入込客数調査報告書によりますと、平成29年度の姫路市総入込客数は総延べ数約980

万人であり、そのうちの約 6 割の人が姫路城を観光するために訪れたことがわかりました。この調査から私たちは、姫路イコール姫路城だけでは将来観光客は減少していくのではないかと考え、ほかの姫路の魅力もたくさんの方に知ってもらいたいと感じました。そこで、姫路の食に注目し、「姫路おでん」、「玉椿」、「御座候」などの名物グルメや「谷内の桃」、「網干のメロン」、「坊勢の鯖」など姫路各地域の特産品を集約し、五感で楽しめる食のテーマエリア、名づけて「姫路めいぶ通(つう)」の設立を提案します。

姫路市は中心市街地活性化計画の期間中であると市のホームページで確認しました。この計画の「来訪者数の増加」、「商店街の活性化」といった目標と中心市街地だけでなく、姫路のすべてのエリア活性化が、「姫路めいぶ通(つう)」設置により達成されるのではないのでしょうか。

姫路駅西側のエリアは昭和のような古きよき時代の景観でありながら、空き店舗が多く人通りがまばらで寂しいエリアですが、このエリアを利用することで、タイムスリップしたような感覚を味わうことができ、姫路の名物を五感で味わうことができるのではないかと考え、このエリアに目をつけました。また、姫路めいぶ通を観光目的とする人の流れをつくることにより、この西エリアならほかの商店街や店舗などにも人の流れが及ぶのではないかと考えました。さらに、空き店舗を利用することによりコストカットが可能となり、改装費やPR活動に十分な資金を得ることができるのではないのでしょうか。

姫路めいぶ通を実現し、人の流れをつくるためには、世間の人々に認知してもらえるような宣伝活動を行わなければなりません。現在はSNSが宣伝方法として主流となっていますが、投稿が流れ、一過性のものになってしまうというデメリットがあります。そこで、PR方法のテーマとして「こちらから訪問する」ということを考えました。今では全国区となった熊本のキャラクターくまモンの名刺には「生まれは熊本、育ちは大阪」と書かれているそうです。これは、熊本の宣伝を、大阪を中心とした近畿地方に実際に行きイベントなどに積極的に参加したそうです。その結果、多数の一般の人がSNSに投稿し口コミが広がり、熊本県

の観光客はくまモンが誕生した平成 22 年から 3 年連続で増加したそうです。

私たち市民も日ごろから姫路めいぶ通を利用することで、姫路の魅力を感じ、訪れたその場所で、お城に加えて、姫路の魅力を伝えていくことにつながるのではないのでしょうか。この市外や県外へみずから動く、市民全員が口コミ広告塔という方法で、この姫路めいぶ通がたくさんの人に知ってもらえるのではないかと考えました。

私が生まれ育った姫路が、食を通じて観光客であふれ、活気あるまちになるためにも、今回提案させていただいた姫路めいぶ通を検討するべきであると思いますがいかがでしょうか。

質問は以上です。前向きな回答をお願いいたします。

○榎原恵利花議長

これより答弁を求めます。

梅木経済観光委員会 委員長。

○梅木百樹経済観光委員会委員長（登壇）

節磨高校、大西寛登議員の質問についてお答えをいたします。

姫路駅西側エリアは、山陽電鉄姫路駅の西側に広がるかつて姫路の卸売市場として、大変にぎわいのあったエリアであります。中央卸売市場の開設を機に、近年は、空き家、空き店舗が目立っております。

最近では、全国各地でリノベーションの手法を活用したエリアの再生事例が見られます。日南市においては、平成 25 年に「4 年以内に商店街に新たな店舗を 20 誘致する」というミッションのもと、全国から公募した 2 名の人材により、平成 29 年には目標を上回る 29 店舗が誘致され、全国から注目される商店街となっております。

このような事例を背景に、本市におきましても、平成 27 年度以降、リノベーションによるまちづくりのセミナーを開催したほか、姫路駅西側エリアの空き家、空き店舗の調査を行うとともに、同エリアの住民の方々や同エリアで事業を営んでおられる方々とまちづくりについて、定期的に意見交換を行ってきたところです。

意見交換の場において、同エリアの住民の方々のみずからの地区に危機感を持たれ、「以前のような活気を

取り戻したい」との機運が高まってきておりました。

そのような中、昨年末に、まちづくりの専門家の協力を得て、「メ市（しめいち）」と題して、同エリアの通りや空き店舗を活用したにぎわいイベントが行われました。1日だけではありますが、空き店舗のシャッターを開け、姫路の人気飲食店が出店し、店先に並べたこたつを囲んで食べることのできる催しで、音楽ライブのほか、もちつきやこま回し、けん玉など昔の遊びを楽しむブースも設けられ、数百名の来場者でにぎわいました。

今回の開催を希望する声も寄せられており、今回のイベントをきっかけに、同エリアが以前のにぎわいを取り戻せるよう、住民の方々の自主的な取り組みに対して、今後も積極的に支援したいと考えております。

また、経済産業省主催の、地域の課題を解決する事業の対象地域に駅西側エリアが選ばれ、昨日から明日までリノベーションによるまちづくりの具体的な検討が行われております。

このように、駅西側エリアが全国からも注目されており、今後、リノベーションを中心としたまちづくりが進むことを期待しております。

また、現在策定中の中心市街地活性化基本計画においても、駅西側エリアが中心市街地の活性化にとって重要なエリアであることを明記するなど、位置づけを明らかにすることを検討したいと考えております。

大西議員ご提案の姫路めいぶ通につきましては、同エリアに観光客を呼び寄せ、にぎわいを生み出す大変有意義なものでありますので、同エリアの住民の方々とともにメ市を定期的に開催していく中で、出店者を少しずつ拡大していくなど、実現に向けて努力するとともに、同エリアの活性化に引き続き取り組んでまいりたいと思います。

また、効果的なPRの方法についても、十分に検討してまいりたいと考えております。

以上のとおりでございます。

○榎原恵利花議長

以上で、飾磨高等学校 大西寛登議員の質問を終了します。

これで、一般質問を終了します。

以上で、本日の日程は終了しました。

お諮りします。

今回の高校生議会の案件はすべて終了しましたので、閉会したいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。

よって、平成30年度姫路市高校生議会は、これで閉会します。

△午前11時20分閉会

高校生議長あいさつ

○榎原恵利花議長

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日の高校生議会は、皆様にご協力いただいたおかげで、無事閉会することができました。

円滑な議事進行にご協力いただいた高校生議員の皆様、感謝申し上げますとともに、高校生議員の質問に対し、真摯にご答弁くださった市議会議員の皆様、市長を初め、市幹部の皆様には、心からお礼を申し上げ、簡単ではありますが、閉会のごあいさつとします。

どうもありがとうございました。

○安積司調査課長

議長の榎原さん、ありがとうございました。

それでは、ここで石見市長にご登壇いただきまして、先ほど閉会いたしました高校生議会について、ご講評をいただきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

市長講評

○石見利勝市長（登壇）

高校生議員の皆さん、お疲れ様でした。また、傍聴いただきました皆様、ありがとうございました。

まずは、全体的なことですが、本日は、高校生の立場、そして高校生らしい視点から、本市におけるさまざまな課題等について、ご質問や提案をいただきました。学生として毎日勉強に励む中で、質問事項の検討もしていただき、また先日も、市立3高の合同生徒会で、「市立高等学校生徒会サミット」を開催さ

れたと聞いております。日ごろの皆さんの頑張りに、心からの感謝と敬意を申し上げます。

きょうの議会でございますが、まず、質問の内容、グループで討議された質問の内容、まさに本来の本会議さながらの鋭いものであったと思っております。

個別に見ましても、「図書館での学習スペースの確保」、「地場産業と高校生のかかわり」、「災害時の安全な帰宅」などは、普段の生活の中で体験したことや感じたこと、また、「美化活動の活性化」や「食のテーマパークの建設」は経済・社会的課題について、ユニークな発想でありまして、それぞれ綿密な現状調査をもとに鋭い質問や非常に魅力的な提案としてまとめられてあったと評価させていただきます。

このほか、「姫路市のPR方法」、「児童虐待」などにつきましても、今まさに、市議会において議論していることでありまして、答弁させていただいたとおり、喫緊の課題であります。どれをとっても非常に参考になるすばらしい内容であったと思います。

内容的なことは以上でございますが、今回の高校生議会に参加された皆さんは、姫路市、そして地域のために、また、社会のために何ができるのか、いろいろと考え、そして、感じられたことと思います。それらは、将来に向けた貴重な経験となります。今後、就職や進学など、さまざまな場面で、この経験を生かしていただくことを願っております。

そして、私たちも、きょういただいた提案を参考として、まちづくりの方向を綿密に検討いたしまして、可能なものは実現していく、実現の方向に向けて努力していくことにいたします。高校生の皆さんも、引き続き、行政や議会の動きに興味を持っていただきまして、また姫路市の市政にも関心を持っていただきたいと希望いたします。

最後に、高校生議会の開催にご理解とご支援をいただきました各学校の先生や関係者の皆様、また、開催に尽力いただきました今里議長を初め、市議会議員の皆様にもお礼を申し上げまして、私の講評とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○安積司調査課長

ありがとうございました。

最後に、姫路市議会の三輪副議長からごあいさつを申し上げます。

よろしく申し上げます。

三輪副議長あいさつ

○三輪敏之副議長（登壇）

姫路市議会副議長の三輪でございます。

高校生議員の皆さん、本当にお疲れ様でした。かなり緊張されたと思いますが、皆さん堂々と、姫路市の将来や課題などについて、鋭い視点で質問されており、感心いたしました。我々、市議会議員も答弁者側に座ることで、日ごろとは違った緊張感を覚えましたが、皆さんの思いに対して精一杯、答弁させていただいたつもりでございます。

本日、姫路市の未来を担っていく若者に、市政について考えていただき、民主主義の根幹である議会を体験していただいたことは、我々や高校生議員の皆さんだけでなく、姫路市にとっても有意義な機会であったと思います。

皆さんには、本日の経験を通じて市政や議会活動に対する関心を深めていただき、ふるさと姫路のまちづくりに積極的に参加いただければ幸いに思います。そして、数年後には皆さんの中から、実際にその席に座って、市民の声を届ける市議会議員が誕生することを、切に願っております。

最後になりましたが、改めまして高校生議会の開催に当たり、ご尽力賜りました関係者の皆様に、深く感謝申し上げますとともに、高校生議員の皆さんそれぞれが、輝かしい未来を送られますことを祈念いたしまして、閉会のあいさつとさせていただきます。

姫路市高校生議会の会議録に署名します。

姫路市高校生議会議長 飾磨高等学校 榎原 恵利花

会議録署名議員 姫路東高等学校 中正 紫音

〃 姫路高等学校 北野 咲希

〃 飾磨高等学校 岩口 敦

「姫路市高校生議会」会議録

発行年月 平成31年（2019年）3月

編集・発行 姫路市議会事務局